

## 平成 25 年度 野生傷病鳥獣保護收容事業関係者研修会 「県民公開講座」を開催

平成 25 年 10 月 13 日（日）午後 1 時 30 分から愛鳥センター紫雲寺さえずりの里で野生傷病鳥獣保護收容事業関係者研修会が公開講座として開催され、一般県民（野鳥愛護会会員含む）28 名、新潟県職員 9 名（うち会員 6 名）、動物病院開業獣医師（事業協力病院）8 名、新潟大学 1 名、その他 4 名の合計 50 名の方から参加をいただきました。

主催者として、当会楠原会長理事の開会挨拶に続き、後援者の新潟県県民生活・環境部環境企画課 長谷川課長補佐からご挨拶をいただいた。挨拶のなかで、「毎年県内各地から保護收容している野生傷病鳥獣の收容頭羽数の大半は事業に協力していただいている動物病院経由である」と協力に対する感謝の言葉があった。

行政説明では、愛鳥センター紫雲寺さえずりの里の佐藤 準副参事が①野鳥愛護普及啓発活動（探鳥会などの自然観察会や研修会、講演会などを実施し、野鳥愛護や自然保護思想の普及啓発）と②野生傷病鳥獣を保護治療し、出来る限り自然へ、放鳥、放獣する救護活動（年間の野生傷病鳥獣收容頭羽数は、約 700 頭羽のうち野生復帰率は 30%強の割合。收容原因は、「衝突」や「巣から落下」が最も多く、次いで「衰弱」「他動物に襲われた」「わなにかかった」「おやとはぐれた」などがあげられる。又、收容される傷病鳥も季節によって異なり、春～夏にかけては「雛鳥」が多く、冬～早春にかけては「白鳥」が多いという特徴となっている。）について説明があった。

続いて、新潟県野鳥愛護会顧問の本間 隆平先生から「オオタカの話」と題してご講演をいただいた。講演では、“オオタカ”の生息環境（アカマツ、クロマツ、スギ林）、繁殖（1～4羽）、食性、繁殖期におけるオオタカの親と雛の鳴き声及び付随する行動、性質の個体差（凶暴、神経質、穏やか）等を長年にわたり携わった調査結果と多数の美しい写真の紹介をされた。

また、「雛の掟（本間説）」大きい雛から巣を離れるが、親鳥が巣に餌を運んできた時、巣に残る小さい雛鳥が取る可能性が高く、又、雛鳥の大きさに関係なく、先に餌を取った雛鳥が所有権を持ち他の雛は横取りしない。この掟を破ると兄弟殺しが起こる。」というウイットに富んだ解説をされた。

講演終了後は活発な質疑応答があり、盛会裏に公開講座が終了した。



行政説明 愛鳥センター 佐藤 準 副参事



講演される 本間隆平 先生（医学博士）



受講風景